

令和6年度 豊田市環境審議会第1回専門部会（循環型社会） 会議録

【日時】 令和6年6月27日（木）午後2時から午後3時50分まで

【場所】 豊田市役所環境センター5階 環51会議室

【出席者（部会長以下、五十音順）】

部会長	谷口 功	（椋山女学園大学情報社会学部）
	梅村 良	（とよたエコライフ倶楽部）
	川上 正弘	（豊田市区長会）
	竹内 徹	（市民公募）
	長谷川 陽一	（あいち豊田農業協同組合）

（事務局）	環境部	松井清掃担当専門監
	循環型社会推進課	金原課長、畑田副課長ほか
	環境政策課	塩谷課長ほか
	廃棄物対策課	青木課長
	清掃業務課	長嶋課長
	清掃施設課	宝木課長

【欠席者】 前田 洋枝 （南山大学総合政策学部）

【傍聴人】 なし

【次第】

- 1 部会長挨拶
- 2 議題
 - （1）環境基本計画の循環型社会における前年度取組について（協議）
 - （2）環境基本計画の循環型社会における全体の評価について（協議）
 - （3）一般廃棄物処理基本計画の改定について（協議）

1 部会長挨拶

2 議題

(1) 環境基本計画の循環型社会における前年度取組について(協議)【資料 1-1~3,2】

事務局	(事前に提出のあった意見を報告) ①リユーススポットで、未使用品だけでなく、未使用に近い既使用のものも受け入れ、販売等リユースを進めることを今後検討してはどうか。 ②リユーススポットの売上金は、どのように活用されているのか、市民に可視化された方が、市民の参加意欲も上がるのではないかと。 ③衣類のごみ減量について、不要とされた衣類のリユース促進も一層取り組むべきではないかと。
事務局	今後の検討の参考とさせていただく。 衣類に関しては、民間企業が実施している取り組みが多いと認識している。売上金の可視化については検討する。
部会長	進捗状況の説明は、「順調」または「遅れている」の2段階評価か。
事務局	昨年度については、「判断ができない」という評価もあったが、基本は「順調」または「遅れている」の2段階評価としている。
委員	目標を達成した場合、「順調」の評価となる、とのことだが、そもそも目標設定値が低い、ということはないか。大きな目標を持つべきではないか。
事務局	現計画を策定した当時は各取組の効果を予測して積み上げて現実的な目標値としたため、野心的な目標ではなかった。
委員	生ごみ処理機の購入とカバン型コンポスト貸与の、昨年度実績はどの程度か。
事務局	生ごみ処理機は377件の申請で予算消化となった。カバン型コンポストは目標700件に対して、992件の申請があった。
部会長	エコットで、ダンボールコンポスト講座を開講しているが、行政としてはカバン型コンポストの利用促進をしているか。
事務局	優先順位をつけて利用促進をしているのではなく、各取組にはメリット・デメリットがあるため、市民にとって様々な選択肢があることがよいと考え、複数の選択肢と機会を提供している。
部会長	ダンボールコンポストのモニターは何人程度か。
事務局	講座の受講者は330人程度、そのうちモニターは200人程度である。
委員	自宅でダンボールコンポストとカバン型コンポストの両方に取り組んでいるが、堆肥の使い道が課題である。安価でも構わないため、買取り制度を設ける等、市民へのインセンティブがあればなおよい。
事務局	堆肥を自身で使えない人についても、堆肥を持参すると野菜との交換を行っていた。市民が継続しやすいよう、改善していきたい。
部会長	(資料 1-3) ごみの削減量について、市への搬入量は15,000t減少、民間資源化施設への搬入量が5,300t増加、市内の量としては約10,000t削減された、という理解でよいか。
事務局	ご理解のとおり。料金改定や搬入前検査の回数を増加する、市民の努力等、いくつかの要因があり、全体量が減少したと考えている。
部会長	ごみステーションでのごみの排出状況で感じることはあるか。
委員	ごみ出しの際は、環境委員が張り付いて、指導等を行っている。それでも、場所によっては分別などごみ出しマナーの悪い地域もある。
委員	現在のごみ回収について、ステーションに分別の質が悪いごみが残っていることがあるが、自治区の当番が回収して再分別して、翌週再び出しているのが実態である。自治区及び住民の意識に依存しているが、自治会も高齢化や住民の入れ替わりがあり、現状の体制の維持が難しくなると思われ、今後のあり方が課題となるだろう。
部会長	ごみ処理施設の老朽化のため、延命化工事を実施するとあるが、今後施設整備はどのよ

	うになるか。
事務局	渡刈クリーンセンターでは、現在延命化工事を実施しており、令和 18 年頃までの延命化を予定している。藤岡プラントについては、平成 27 年度から 4 年かけて延命化修繕を実施し、令和 9 年度までは安定的に使用できる。その先の市内の安定的な処理体制の構築に向けた検討も必要となっていく。
委員	他都市では航空機燃料にリサイクルするため食用油の回収を積極的に行っている事例もあるが、豊田市でも将来的に同様に燃料へのリサイクルを進める等、考えはあるか。
事務局	廃食油の需要は高まっており、現在、リサイクルステーション 10 カ所で回収しているが、入札価格の高いところに引き渡しており、利用方法までは指定できていない。
委員	廃棄している人も多いと思うため、需要が高まっていることを広報し、市民がより協力的になるのが望ましい。

(2) 環境基本計画の循環型社会における全体評価について（協議）【資料 3】

委員	プラスチックの過剰包装が多く、プラスチックごみを減らすことは困難である。市民の行動変容は具体的に何を求めているか。
委員	市民が自宅で分別をしても、回収する場所が限られているように感じる。行政で、回収場所を増やすなど市民にとって排出先が増えると、分別への協力者も増えるのではないか。
事務局	熱心に集団回収に取り組んでいる団体もある中で、市として、ステーションを増設する方針には舵を切りづらい。 近年は民間企業の設置型回収ボックス等の整備も進んでおり、市民の排出先の選択肢を増加させる仕組みづくりが必要という認識で、民間企業との情報交換も行っている。
部会長	食品ロスはその程度の量が発生しているのか。
事務局	食品ロスは、可燃ごみの一割程度を占めている。
委員	JA の直売所では、包装等がないためスーパーに比べて容器包装等のごみは少ない一方、野菜まるまる一個はいらないという声も聞こえ、家庭での廃棄量にも影響している部分はあるかもしれない。 スーパーと比較すると事業所としての廃棄量は少ないと思うが、形態としては、農家に対して販売場所を貸しているため、農産物の保有権はなく、見切り販売等が無断でできない。例えば農家とフードドライブの仲介があるとよい。また、以前は肥料として需要が有効活用されていた籾殻が、転業や廃業によって需要が減り、近年は大量に廃棄されていることも課題である。
部会長	業界団体等の環境政策への悩みに対して、行政として応えられることはあるか。
事務局	行政として既存の取組を通じて、フードシェアリングサービスと農家を繋げることも考えられる。 また、農家としては、持ち込んでもらった堆肥を畑全体に使用するのにはリスクが大きいので、一部の農家さんに協力してもらい、効果の実証を行っている。
委員	産地直売では、規格外品の野菜を安価で提供するという思想であるが、質のよい野菜を高価で提供する農家と初心者農家のような 2 極化されており、フードシェアリングに出す場合は、それぞれ農家とのコミュニケーションが重要である。
事務局	今年度から一般廃棄物処理基本計画の策定に向けた検討を行う中で、様々な団体にもシェアリングを実施するため、農家や業界団体と話をすることは可能だと考える。
部会長	SDGs 未来都市、ゼロカーボンシティ等の達成に向けて、何か市民に対して情報の見える化は出来たか。
事務局	現状は、市が実施している取り組みが SDGs のどの項目に当てはまるかを示しており、廃棄物・資源循環分野としては課題がある。今後 2030 年に向けて、まずは現在進めている取り組みを知ってもらうところから考えている。
委員	分別アプリなど、市が実施している取組が十分に市民に浸透していない。もっと、普及啓発を進めるべきと考える。

委員	普及啓発においては、ごみステーションに QR コードを掲示するなどの方法もあるのではないかと。
----	---

(3) 一般廃棄物処理基本計画の改定について（協議）【資料 4】

事務局	(事前に提出のあった意見を報告) 一廃計画改定プロセスにおいて実施されるアンケート内に盛り込むべき内容として、ごみ非常事態宣言の認知度や危機感、市の各種取り組み等についての認知度、利用頻度、その理由を確認してはどうか。
部会長	限られた設問数の中で、設問に対する回答からどのように施策検討に活かせるかを踏まえ、内容を検討できるといいと思う。
事務局	アンケートは環境基本計画の中で実施するもので、廃棄物関連の内容も盛り込む想定であるが、項目数については全体のバランスを考慮する必要はある。8/2 の環境審議会にてアンケート案についてお示しする予定である。
部会長	一般廃棄物処理基本計画は、基本的に国の基準に則って策定するのか。
事務局	国の基準及び豊田市の地域性を踏まえて策定する。
部会長	豊田市の SDGs ポイントの交換はどのように出来るか。効果、認知度はどの程度か。
事務局	現在はポイント交換を行っておらず、飲食店等加盟店で使用出来る。すぐに示せる数値が手元にないが、30,000 人程度登録しており、ポイント発行は 100 万ポイント程度である。
部会長	使用意欲をかき立てるような啓発などがあるとよりよいと思われる。

全体

部会長	本日の議論を踏まえて、審議会本会議に諮っていくという理解でよいか。
事務局	次回の審議会では、本日お示したような内容を踏まえて、環境基本計画の骨子案を提示し、議論する想定である。

4 その他

審議会本会議を 8 月 2 日 (水) 午前 10 時から南庁舎 5 階 南 52 会議室で開催する。